

## 夢を持つこと

花巻南高等学校 三年 多田 結香

夢と聞いて人は何をイメージするのだろうか。寝ている時に見るもの、自分の憧れなど様々あるだろうが、大抵の人は「将来なりたいもの」と答えるのではないかと思う。その中で「夢は何ですか」という質問を今まで多くの場面でされてきたのではないだろうか。正確も、目に見えることもないこの質問は幼稚園や保育所の小さな頃から常につきまとうてきた。今でもくり返し耳にするこの質問だが小さな頃と今では質問の意図は違うものなのだろうか。そして夢とは何なのだろうか。

小さいころの夢とは、自分の好きなこと興味のあることの延長線上にある存在である。そのため、現実離れしている夢も見うけられる事があるが、周りの大人はそれを否定することはない。むしろ応援する側にまわる。一方で年を重ね、この質問を答えていくにつれて周りの大人は質問を投げかけ、本当にその意志が本物であるのかを見極めようとする。そして時には否定をし、もう一度夢を見直すべきだと提案するようになる。

なぜこのように変化していくのだろうか。私は小さい頃に問われる夢は、好きな事を発見させるための質問であるが、高校生に求められる夢は、生きていく術を明確にするための質問ではないかと考える。小さい頃の夢はあくまでも子供に世の中への興味を持たせるためのものであり、学ぶことへの意欲向上、可能性育成のための契機にすぎないのだと思う。一方で高校生の場合は社会貢献の具体的な方法を質問されており、どのように世の中へ出て戦っていくかという明確さを求められているのだと思う。実際はありそうにも思われないが、万が一実現すれば良いなあと思っている事柄という夢本来の意味とは異なり、私たちは現実性を求められるのである。今高校生が投げかけられている夢とは目標なのである。「夢は何ですか」という同じ質問であっても聞いている側が求めている応答や質問の意図は違うものであると考える。

では、夢と目標の違いはあるのだろうか。似ている言葉であり、目標にも夢にも正解が存在しないというのと同じではないかと私は思う。しかし終わりがあるという点については全く違うのではないだろうか。目標には結果があるように私たちにも定年という社会貢献手段の終わりがあある。一方夢には、そういったものがない。人間は、興味のあることはいつまでも追い求めることができるのである。定年を機に新たな事を始める人々がいるように人は常に夢を持ち続けているのである。夢に終わりはない。目標はある地点のゴールであるのが目標に対し、夢を持つことは生きることなのだと思える。夢を追い求めることは生きる意味なのである。だからこそ人は夢を持ち続けていくべきだと私は思う。